

# 日本記者クラブ会報

第396号  
2003年  
(平成15年)  
2月10日発行

〒100-0001  
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一  
日本プレスセンタービル  
©社団法人 日本記者クラブ

## 年初から順調なスタート

### クラブ賞に十一候補の推薦

新年一月のクラブ行事は、恒例

の研究会「経済見通し」(五回)

を皮切りに、一昨年から続いている「元気な知事シリーズ」の橋本大二郎・高知と石川嘉延・静岡の



橋本・高知県知事昼食会 司会は山田(手前)と  
和田両企画委員が担当 写真=高知新聞社

両県知事昼食会、さらに昨年末から好評のシリーズ研究会「北朝鮮」

③(小牧輝夫・国土館大教授)、

谷垣禎一・産業再生担当相、ドモンフェラン新駐日仏大使、熊谷弘・保守新党代表など、計十三件。新年互礼会員懇親会は、ほぼ三百人の会員参加で盛り上がり、映画の試写会「13階段」も超満員。デフレ不況の閉塞感に押しつぶされそうになりながらも、それなりに充足感のある年初でした。

話題を呼んだのは「元気な知事」十五人目の橋本知事。三期十二年のベテランぶりを発揮、どんな質問にもスムーズに、ソツのない答弁を繰り返したのはさすがでした。

ところが、自らの四選出馬を問われたとたん「ここでしゃべったら、地元の人に怒られる」と、トインダウン。これに三宅久之会員(毎日新聞出身)が食いつきました。「三期十二年で、なおやり残したことがあるというのなら、無能の証明。余人をもって代えがたし、と思うのなら、うぬぼれの証明。いずれも精神の老化現象だ。開明派の首長といえども例外はない。マスコミ界大先輩の厳しい多選批判に、どんな逃げ口上を、と思えば、橋本知事「もしこれまで例外がなかったのなら、私は例外をつくる知事になりたい」と、堂々の応答で、負けん気をチラリ。さてこの勝負、軍配はどちらに。また、「北朝鮮」③の小牧教授は、北朝鮮経済の現状を、具体的な数字をあげて解説し「米朝関係の緊張で最悪化の兆しにある」と分析。日朝正常化の相場について「六五

年の日韓が五億ドルだった。今の価値で単純に言えば、三十億ドル」とはじめてみせました。

互礼会で発表された恒例の「予想アンケート十問」と昨年の結果は、読売新聞夕刊コラムで二度にわたって紹介されたように、満点正解者はなく、九点が三人。弘中喜通(読売論説副委員長) 召田政春(信越放送東京支社編成部長) 河合公八郎(日テレ出身)の三会員に表彰状と記念品が贈られました。今年のアンケートの十問目「大相撲で横綱が外国出身力士だけになるか」は、投票締め切りの二十日に貴乃花が引退して答えが出てしまったため、企画委員会は投票者全員を正解に決めました。

今年の「日本記者クラブ賞」の候補者として十一人が推薦されました。どの候補も有力で、選考まで難航が予想されます。決定は四月二十一日です。昨年を含め最近五年間で二度、受賞者を出していません。今年こそ良い結果を期待したいものです。

(専務理事 那部吉正)

クラブゲスト



**熊谷 勝行**  
帝国データバンク情報部長  
1.15 (水)  
司会 福沢亜夫委員  
出席 148人



**植草 一秀**  
野村総研主席エコノミスト  
1.15 (水)  
司会 矢島誠司委員  
出席 212人



**トーマス・バーン**  
ムーディーズ・バイスプレジデント  
1.14 (火)  
司会 羽生健二委員  
出席 107人



**深尾 光洋**  
慶応義塾大学教授  
1.8 (水)  
司会 福沢亜夫委員  
出席 212人



**武者 陵司**  
ドイツ証券チーフストラテジスト  
1.8 (水)  
司会 永野健二委員  
出席 221人

二〇〇三年  
経済見通し

▼とりあえずのデフレ均衡

武者 陵司氏

市場関係者に人気の高いストラテジスト。当研究会に三度目の登場だ。日経平均の一万円割れや八千円台突入をビタビタ予測、ベア（弱気論）の代表と見られていた。ところが講演の副題「〇三年日本株にチャンスあり」とあるように立場は一変。

ここに来て見方を変えた理由として、まず米国のバブル崩壊の規模と速度が想像以上で、深刻だということ。次に日本経済への評価が逆に悪すぎたというのである。

昨年以來、分かったことはバブル崩壊とそれに続く長期的低迷が日本だけでなく、米国初め世界共通の現象だということ。日本では大恐慌時と同じく、株価がピークの五分の一に下落しても経済の収縮も国民生活の混乱も起きなかった。なぜなら、異常な低金利が財政赤字をファイナンスし、とりあえずデフレ均衡が成り立ったため。

ただ大銀行の自己資本実質マイナスを、このまま放置すれば、まだ大恐慌に陥るリスクは残るそうだ。

▼まずインフレターゲットを

深尾 光洋氏

昨年の当研究会で「マイナス金利」の衝撃的な提言を行った深尾教授の連続登板。

教授の立論の大きな特徴は、デフレから脱却しない限り不良債権処理も財政再建もできないということにある。「金融危機を回避するのは簡単、小泉首相が銀行国有化を決意すればすむ」というのは皮肉を効かせた反語表現だろう。

金融より財政破綻の懸念を重視する姿勢も昨年と同じ。奥田日本経団連会長や塩川財務相が消費税引き上げに言及したことについても「増税としての消費税引き上げはデフレから抜け出してからでないと無理。間接税カットを組み合わせても三十兆円のデフレギャップは深すぎる」と懐疑的だ。

だからデフレ脱却策も、まず日銀のインフレターゲット導入。日銀がやらないなら日銀法を改正し、政府が日銀に強制する。それでもだめなら政府が保証しているすべての金融資産に二%程度課税する「マイナス金利」の登場である。

▼シングルAの正当性を強調

トーマス・バーン氏

昨年五月、日本の国債格付けを先進国では最低のシングルAに引き下げたムーディーズの責任者。

かつて格付け引き下げに「日本の国債は全部国内で消化している」と経済閣僚が平静を装っていたことを思い出す。ゴルフではあるまいしシングルでもボツワナ、チリ以下のA2ともなれば財務省がいら立つのも理解できる。

財務省と散々押し問答を繰り返したのを意識してか、バーン氏も「(司会者に)私一人が決定したように紹介されたが、担当委員会の決定だった」とまずは神経質な滑り出し。それでも「日本経済の現状では平和時では未曾有の水準に達した国債残高が減る見通しは立っていない」と断言。

また世界一という日本の対外資産残高や一四〇〇兆円の個人金融資産も、財投赤字や銀行部門の隠れ不良債権を加味すれば見かけほど日本の強みにはなっていない、と決定の正当性を改めて強調した。

(通訳 池田薫 吉国ゆり)

▼変わらない財政主導論

植草 一秀氏

バブル崩壊以降、とりわけ最近の構造改革のかけ声に抗するように一貫して財政主導の景気対策を主張。ある雑誌の討論会で、ほかの経済学者から「植草さんは一貫していますからね、いいか悪いかは別にして」と、あきれられている。

確かに、配布資料を見ると景気の出谷（鉱工業生産指数で示される）と平均株価のグラフが見事に一致。右肩上がりの起点には時の政府の総合対策が、下降点には緊縮予算や増税が必ず存在している。

なるほど今日の体たらくは、財政当局の時宜に適せぬ緊縮措置のせいとか、と納得してしまう。今回も「景気回復優先への路線転換を宣言すべき」と明快だ。

その上で、ま水五兆円の景気対策と財政破綻懸念を防ぐ健全化十カ年計画をセットで出すべきだという。「小泉首相の」くびを守るために国を犠牲にしてはならない」と、最後は刺激的な文句も飛び出した。

▼モラルハザードそのもの

熊谷 勝行氏

デフレという言葉を聞かない日はないが、さてその実態は——まずは倒産の実情を知るのが先決と企業信用情報のプロをお招きした。

企業倒産が高水準ながら戦後最高にまで至っていない要因の一つに連鎖倒産が少ないことを挙げ、ダイエー救済劇で使われた「大きすぎてつぶせない」という口実はうそと切り切る。目からウロコの一例だ。

信用保証協会による特別保証制度もモラルハザードそのもの。適用を受けた企業百七十二万件は問題が先送りされただけの倒産予備軍。上場企業でも目下株価が百円割れの約二百社も同様。ダイエー以後、二度目の債権放棄を受ける例が続出しているが「恥の上塗り」に過ぎない。

部長がいろいろなデータを勘案して倒産件数をはじめてみたところ、今後二年間で十から三十万件。「もし本当にそうならばパニックでしょう」と、部長も最後は絶句してしまった。

福沢 亜夫  
（企画委員 時事通信OB）

橋本 大二郎 高知県知事



食会 委員 委員  
和田孝男 山田孝男  
1.14 (火) 出席 79人

▼例外をつくる知事になりたい

早いもので今年暮れには三期目の任期満了となる橋本知事。同じ改革派の三重・北川正恭知事が「三選不出馬」を表明した後だけに、この日の発言が注目された。

四選出馬については「ここでしゃべっては地元の怒りを買う」とまずは予想通りの発言。だが続けて「五十六歳になったばかりで元気いっぱい。ただ、四期目になにをしていくか明確に説明しなければならぬ」と述べた。「多選は確実に弊害がある。どんな首長でも例外はない」の厳しい質問にも「例外をつくる知事になりたい」と切り返した。どうやら四選出馬は既定路線のようだ。

小泉首相の地方政策に対し、地方からの反論は多い。橋本知事も「小

泉首相は、地方のことは地方に——というが、地方分権に対する認識が深いのか薄いかよく分からない」とバツサリ。「補助金や地方交付税は国が関与しないなら、大幅に減額されてもいい。国との調整がなくなれば、その分の労力を地域のために使える」と、現在の縦割り行政からの脱却姿勢を鮮明にする。

だが、自らを「バランス感覚と現実を重視するタイプ」というだけに、「地方の知事が一人、遠吠えをしてもしかたがない」と、国との真つ向勝負は避けるスタンスだ。

一つの提案をした。北川知事ら改革派グループが連携し、「地方議会、首長選に出たい人をグループが推薦できないかと考えている」との構想を示したのだ。さらに「活動する上でのキーマンは北川さんだ」と北川知事への期待感をにじませた。

財政面や人材面で、地方がイニシアチブを取る日がやってくる気配を感じた。

産経新聞地方部長 縣 忠明  
（写真＝高知新聞提供）

ク ラ ブ ゲ ス ト

谷垣 禎一 産業再生担当相

▼メインバンクとの二人三脚

「こんなに勉強したのは司法試験以来」という谷垣禎一産業再生担当大臣が設立に取り組む「産業再生機構」は、企業再生、業界再生、そして日本再生という大きな役割を担う。だが、本来なら倒産しても不思議ではない企業を救おうというのだから、当然「ゾンビ企業の延命策」との批判も出る。

谷垣大臣は「日本経済を立て直すためのエンジンの役割を果たすものにしたい」と語るが、国民の納得できる運営ができないと、政治不信は一層強まることにもなる。

「再生の可能性がありながら債務過剰で行き詰まっている企業を対象に、非メインバンクの貸出債権を再生機構が時価で買い取って、メインバンクと共同で再建を図る」という



のが再生機構の役割。だがこのスキームは大きな問題を抱えている。銀行の公的資金による不良債権処理同様、再生機構にも政府保証による十兆円の買い取り資金が準備されている。形は異なる公的資金による企業救済が金融以外に拡大するわけだ。そして時価で買い取った債権が劣化した場合、国民がそのツケを払う。

会見ではこれまでに公表された以上の内容は語られず、問題点についても、結局は「人のよろしきを得て、運用のよろしきを期していくことが大事」との答えを返した。前途多難を予感させる会見であった。

企業再生には必ず利権が絡む。明確な基準を設けても、案件によっては政治の力が加わってくるだろう。「人のよろしき……」の言葉通り、まずは再生機構の社長に誰を選ぶかが、再生機構の前途を占う試金石になる。

日刊工業新聞経済部長

小池英二郎

1・16(木)記者会見 司会 羽生健二委員 出席 138人

ベルナルド・ドモンフェラン 駐日フランス大使



1.21(火) 会 務 委 員 会 副 委 員 長 藤 野 三 宅 三 郎 氏 出 席

▼超大国にどう対峙すべきか

会場の受付には、フランス大使館が急ぎよ翻訳・発表したシラク大統領のメッセージが積まれていた。一月二十日に引退を発表した大相撲の横綱貴乃花へのオマージュである。会見が始まる前から会場は、この極めて日本的な話題に並々ならぬ関心を示した知日派のフランス大統領領の話題で沸いた。

パリ政治学院で教壇に立ったこともあるドモンフェラン大使は、学究肌の人である。一時間十五分のうち、一時間以上をかけてフランスの視点から世界の現状を「講義」した。ロジックは明快、主張は菌切れ良かった。中でも多くの時間を割いたのが、イラクの大量破壊兵器問題である。大使は「国際社会が望んでいるのは畢竟、イラクの武装解除である」と

して、国連安保理決議を欠いたイラク攻撃の不当性を訴え、フセイン政権の打倒に傾きがちな国際世論の先走り戒めた。

「世界の声の大勢は、安保理決議1441に沿った形で問題を解決してほしいということだ」「この問題で国連査察は極めて重要であり、しかも一定の成果を挙げている。従ってこれからも継続すべきである」「イラクに対して今後国際社会がどう対応するかは、安保理のみが決定する。これは決議1441に明記されており、この決議が全会一致で採択されたことに留意すべきだ」

イラク問題を語る間、大使は一度も米国に言及せず、一度も米国批判を口にしなかった。にもかかわらず、会見の隠れたテーマが米国問題であることはおのずから明らかだった。半ば強引に国際世論を唱導しようとする「唯一の超大国」に他国はどう対峙すべきなのか。大使は繰り返しその一点を訴えたのだった。

共同通信外信部(元パリ特派員)

軍司 泰史

石川 嘉延 静岡県知事

▼「行政の生産性向上」に挑戦

全国に先駆け、公募地方債の投資家向けのIR説明会を開催するなど、石川知事は時代に即応した行政を心掛けてきた。県政運営に民間の経営感覚を積極的に取り入れたことでも知られる。この日の昼食会では、「行政の生産性向上」を合言葉に進める静岡県の挑戦とその発想の源泉、「富国徳」を理念とする地域づくりへの意気込みが披露された。



1.23 (木) 昼食会  
司会 沼堅吾委員  
出席 神志名泰裕委員  
68人

とりわけ力が入っていたのは、成果を重視した新行政運営システムの説明。「世界的なマーケットを相手に活躍している県内企業は、ホワイトカラーの生産性向上の改革も目覚ましい。県行政にも導入し得る」。そんな発想から始まった行政改革の試みは、効率的な行政経営の目安

となる「職員一人当たりの県民人口」が、全国第二位の多さになるなど、目に見える成果をもたらした。

行革方針を実践に移すために取った手法が興味深い。自身の経験から「上から一方的に豪腕を振るっても、面従腹背が関の山」と痛感し、まず職員の意識改革から手着けたという。単なる掛け声にとどめず、業務の評価方法など仕事目的を明確化する手だてを追求したところが、公務員行政に精通した石川知事らしい。

先ごろ、市町村合併後の国、県、市町村のあるべき姿を示した「内政制度改革試案」を公表。都道府県を国直轄の「大都市圏」と、地方自治型の「省(道)」に再編成する大胆な構想を世に問うた。「本格的な行政サイドからの立て直しが待ったなしということを訴えたい」と、国民的な議論に期待する。

穏やかな語り口ながら「全国で右に出る者がいないぐらいの実践」を自負する経営者の心が伝わってきた。

時事通信内政部

蟹澤 伸次

小牧 輝夫 国士舘大学教授



1.23 (木) 研究会  
「北朝鮮」③  
司会 春名幹男委員  
出席 108人

▼「恩恵」が減る経済改善措置

核開発問題をめぐって迷走を続ける北朝鮮。謎を解くかぎは、危機的な経済苦境にある。経済の現状と金正日総書記の描く苦境脱出のシナリオを展望するのは意義がある。

公表される少ない経済指標の中で、九四年度の歳入四百十六億ドルが九七年には百九十七億ドルへと半減している。九八年には「苦難の行軍」を終え「強盛大国」作りがキーワードとして登場する。

小牧氏は、このスローガンを、厳しい状況の認識に立った「経済再建へのノロシ」と見る。そのためには、米日との関係改善による体制保証と経済援助が必要だ。実際に、二〇〇〇年末から日朝首脳会談に向けた水面下の動きが始まる。しかし、同時に米国の政権が民主党からハー

ラインの共和党・ブッシュ政権に移行し、出口が見つかからない。

国内的には、昨年七月に、「ヤミ経済の実態を追認する形で」、物価、給与を数十倍引き上げ、対米ドル為替レートも七〇分の一に切り下げられた。その先には、中国式の改革開放が不可避だが、北朝鮮は、①あくまで社会主義経済の原則を守り②最大限の実利を実現する」という基本に固執している。昨年七月の大胆な措置と、新義州地域の経済特区指定も「経済改革」ではなく、「経済改善措置」だとしている。

その中で、農場からのコメ買い上げ価格と配給価格の逆ザヤの解消、さらに工業生産現場への資材調達の手助けに、小牧氏は、やむを得ぬ「国家財政の負担軽減」が最大の目的、と読み解く。これは、国家の「恩恵」とそれにこたえる人民の「忠誠」という基本的な価値観が崩れる兆しかもしれないとする氏の指摘は、示唆に富んでいる。

読売新聞解説部次長

宇恵 一郎

熊谷 弘 保守新党代表



1.24 (金) 登食会 司会 菅沼堅吾委員 和田圭員 出席 75人

▼国民連合の酵母になる

昨年末の結党以来「理念がない」「国民不在だ」などと指摘され、マスコミから評判が、かんばしくない保守新党。民主党を離党して新党の代表におさまった熊谷氏は、自身の行動と党の名誉回復をかけた登場となった。冒頭こそ「厳しい質問の集中砲火を覚悟して」よるいを着て来ようかと思つた」と神妙だった熊谷氏。だが、質疑応答では、自分たちが理念に基づいた政策集団であることを懸命にアピールしようとする熱意が伝わってきた。

日本の歴代政権が、「構造改革派」と「景気拡大派」の繰り返しで、一貫した経済政策を打ち出せなかったことが、日本経済低迷の要因となつたと指摘したうえで「今こそナショ

ナル・コアリション（国民連合）的な政治体制を構築する必要がある。私はその触媒となり酵母となりたい」と力説。

古巣・民主党などから批判が出ていることについては「私たちのような積極的な意見を出してみるといい経済政策を転換しよう」と訴えているが、一カ月の政府・与党内の議論の中で私たちの意見は常識になつてきている」と胸を張った。

終了後、出席者の中からは「じっくり話を聞くと、なかなかの政策を持つているんだね」と保守新党を「再評価」する声も聞こえた。

ただ保守新党は熊谷氏自身も認める通り十四人の小所帯。新聞などで取り上げられる機会が少なく、取り上げられても、ほんの十数行程度というのが実情だ。完全な名誉回復を勝ち取るには、小泉純一郎首相ではないが「ワンフリーズ」で、国民の心をつかむ努力が必要となるだろう。

中日新聞東京本社政治部

金井 辰樹

国井 修 外務省調査計画課課長補佐

▼顔の見える支援と人材育成

「輸血しないと（マラリアの）この子は一週間で死ぬ。十年後にエイズを発症する可能性とどちらを取るか」。感染症がまん延するアメリカで、国井氏はこんな選択を迫られ、一度は反対したHIV感染者からの輸血を認める苦い経験をした。

世界で毎日一万四千人が新たにHIVに感染し、毎日八千人以上がエイズで死亡する統計を紹介し「ニューヨークのテロより多くの人が毎日エイズで死んでいる」と比較した。多くの出席者はテロとの戦いより、HIVとの戦いが人類の緊急かつ深刻な課題と感じたに違いない。

日本は二〇〇〇年の九州・沖縄サミットでエイズを初めてサミットの議題にのせ、当時の森喜朗首相が五年で三十億ドルの援助を表明。世界

エイズ・結核・マラリア対策基金には米国に次ぐ二億ドルを拠出した。しかし「国内のエイズ対策は遅れ、海外に貢献できる人材は少ない。現地で情報を集め、相手国と話し合い、プログラムを作るマネジメント能力を持つ人はさらに少ない」。

「顔の見える支援」と人材育成のため、今春から青年海外協力隊がエイズ対策隊員を募集するという。一般隊員がエイズの知識なしには活動できない、感染拡大の事態も背景にある。「現地で学んだ技術を、日本のエイズ対策に返してほしい」という国井氏の発想からは、国際貢献の謙虚で着実な推進が利益を生むという、確かな信念が伝わってきた。

国井氏は栃木県出身の医師。自治医大卒業後、県内のへき地診療所勤務のかたわら、外国人医療に取り組みNGOを組織、活動した。その後、東大国際地域保健学講座専任講師などを経て一昨年十月、政策アドバイザーとして現職に迎えられた。

下野新聞社東京報道部

早川 茂樹



1.30 (木) 研究会 「HIV/AIDS」 司会 宮田雄委員 出席 32人

中田 宏 横浜市長



1.31 (金) 昼食会  
司会 川内一誠委員長  
出席 橋本五郎委員長  
101人

▼行政マンのトップでない

「中田さん」。地元の記者クラブでは市長をこう呼んでいる。昨春、就任直後の記者会見で恭しい壁をつくるのはやめようと話し合った。三十八歳の若さもあってか、中田さんにはある種の政治家が持つ尊大さがない。社交的な応対、テンポのよい語り口、明快なロジックは確かに人を魅きつける。与党相乗りで四選を目指した官僚出身候補を破り当選した中田さんは今、市役所に新しい息吹を吹き込んでいる。

決断をする際に時間は関係ない。場合によっては超法規的な措置もありうる」と明言する。その理念が象徴的に現れたのが昨年話題になった住民基本台帳ネットワークをめぐる「市民選択制」だ。個人情報保護の安全性を不安視した市民八十四万人の支持を追い風に総務省の「違法状態」との認識を事実上、撤回させ「段階的参加」を認めさせた。

全国的に耳目を集めるニュースだけではない。外郭団体を含めた市の借金総額の情報公開や職員発案の「起業家事業」など「中田色」を矢継ぎ早に打ち出す。当日は初の本格予算発表を終えた翌日で、一つの山場を乗り切り少しほっとしたように見えた。今後はいまだ選挙での感情的しこりが残る市会との論戦が始まる。「しがらみなし」を武器に既成組織に改革を迫る中田さんはいま最もウオッチ（チェック）しがいのあ

神奈川新聞報道部 牧野 昌智



『密約外交』

中馬 清福

（朝日新聞社常勤顧問）  
ライシヤワー大使  
と大平外相が核持ち  
込みに関して密談し

た。その前提になる日米の密約を大平は知らなかった。大使は公電でそう書いている。だが、これは真実か。大使がそう受け取っただけということはないのか。

この疑問が拙著の出発点である。

日本側は予想通り「記録がない」の一点張りだった。これでは、歴史が大使の電文どおりに書かれても文句は言えない。それでいいのか。外交は一面で記録の戦いでもある。

（文春新書 六八〇円）

『ジャーナリズム曠野紀行』

伊藤 光彦

（毎日新聞OB）

副題を「1980-2000」

◎どんな時代だったか」とした。世紀が暮れようとしていた頃、時間の流れが早すぎて、何もかもが前へ飛び去ってゆくような錯覚にとらわれた。一般的な老年感覚にすぎない。

しかし、自分のためだけにでも、我が身と共に置いてきぼりにされるこの時代を、自分なりのカタチで記し残したいと思った。この本である。雑文集だが、おびただしいことを思い出した。時間の流れは止まらなかつたけれど。

（明窓出版 一、五〇〇円）

『人と火—エネルギーと環境の旅で考える』

最首 公司

（東京新聞OB）

ヒトは火を手に入れて「人」になった。その火が「炭」（水素原子1個に炭素10個）である間、人口倍増に千六百年を要した。十八世紀、産業革命で「石炭」（水素1個に炭素2個）に代わると百年に短縮され、二十世紀、「石油」（水素2個に炭素1個）が登場すると五十年になった。人類は炭素の少ない燃料を獲得して人口を増やした。次の時代は「水素」「原子力」と「自然エネルギー」が予測されるが、同時に「生活様式」の変革も必要になる。

（エネルギーフォーラム社 一、八〇〇円）

# 会員懇親会



アンケート最高得点 弘中喜通（読売・論説副委員長）、召田政春（信越放・東京支社編成部長）、河合公八郎（元NTV）の三会員（左から）

新年の会員懇親会が一月十七日午後六時から十階ホールで開催され、二九五人が出席しました。まず杉田理事長があいさつ。続いて「二〇〇二年予想アンケート」の結果発表と表彰が行われました。アンケートには五百一人が投票。ここ三年連続で満点者がいました。



外人記者クラブ会長のヴァン・デル・ルフト NRCハンデルスブラット紙支局長と杉田理事長

が、今回は残念ながらナシ。しかし、弘中喜通、召田政春、河合公八郎の三会員（写真上）が見事九点を獲得しました。

最も正解率の低かった「クロニン人間誕生ニュース」を外し満点を逃したのが召田さんと河合さん。昨年暮れ、スイスに拠点を置く新興宗教団体がクロニンベビー誕生を発表しましたが、どうも怪しげ？ というわけで、召田さんは「てっきり「ノー」が正解とばかり思っていました」と語り、「深い洞察力で言いたいところだが、カンと運がよかっただけ」と。河合さんは「ノーベル賞とサッカーなど期待を込めて答えたのが、その通りになってうれしい」と喜びを表していました。



左から北村副理事長、上田会員、諏訪会員



イスラエル大使館のハスケル参事官と小林副理事長

弘中さんは内心忸怩たるものがあるかと謙遜？「自分が思っていたことと逆に回答したのが当たったので、今年は確信を持った「眼力」で満点をとりた」とあいさつしました。

ちなみに、最も正解率の高かったのは第一問の「首相はだれ？」で、九四・四％の人が小泉さんの名前を書きました。



特別会員の羽田孜氏も駆けつけてくれました

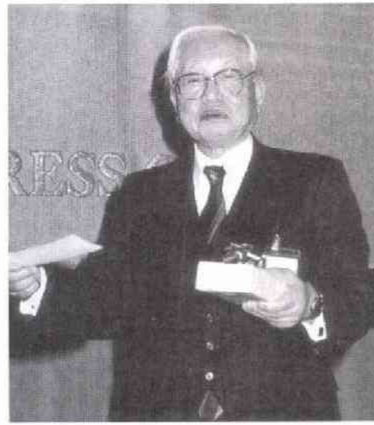


平均年齢のせいもあってか和食コーナーが人気でした



白木・前専務理事に福引一等

お楽しみみの福引で、一等賞を射止めたのは白木東洋さん（写真左）。会場からは「八百長かあー!?」という冗談も聞かれましたが、一番びっくりにしていたのはご本人。番号が13で



ご提供ありがとうございました

左記の会員社から多数の景品の提供をいただきました。

- 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社
- 日本経済新聞社 産経新聞社 日刊スポーツ新聞社
- スポーツニッポン新聞社 東京ニュース通信社
- 共同通信社 時事通信社
- 北海道新聞社 東奥日報社
- 岩手日報社 河北新報社 福島民報社
- 山梨日日新聞社 静岡新聞社
- 信濃毎日新聞社 中日新聞社 岐阜新聞社
- 新潟日報社 北國新聞社 京都

縁起悪いなあ、と思っていたそうです。しかもこの日は金曜日。「帰りは気をつけてよー」という、毎日時代の仲間にもまれ祝杯を挙げていました。



「昔がなつかしいね」と語り合う東証の土田会員、國政会員、後藤会員（左から）

- 新聞社 神戸新聞社 奈良新聞社 中国新聞社
- 山陰中央新報社 四国新聞社 高知新聞社
- 西日本新聞社 長崎新聞社 熊本日日新聞社
- 南日本新聞社 沖縄タイムス社 琉球新報社
- UICK テレシートニュース 日本新聞協会
- 日本プレスセンター 日本放送協会
- 東京放送 日本テレビ放送網
- 文化放送 ニッポン放送 全国朝日放送
- フジテレビジョン テレビ東京 エフエムジャパン
- WOWW 日本短波放送
- 衛星チャンネル 毎日放送 読売テレビ放送
- 北海道放送

福引当選者は左記の方々です。（敬称略）

- 一等（APSカメラ） 白木東洋（個人D 毎日出身）
- 二等（ふぐ料理スペシャルコースセット） 堀義明（個人D 共同出身）
- 同（帝国ホテルベア食事券） 吉原勇（個人D 毎日、下野出身）
- 三等（ホットプレート） 秋岡家栄（個人D 朝日出身）
- 同（婦人用バッグ） 田村哲夫（テレビ東京専務取締役）
- 同（かに料理デラックスセット） 二階堂圭一（南日本新聞東京支社長）

- 札幌テレビ放送 テレビ埼玉 新潟放送
- 信越放送 東海ラジオ放送 京都放送
- 広島ホームテレビ 山口放送 RKB毎日放送
- 福岡放送 テレビ西日本 大分放送
- 日経映像 日本民間放送連盟
- アラスカ 王子製紙 協同広告
- 中外製薬 中部電力 千代田化工建設
- 帝国ホテル 凸版印刷 JR 東海
- 東京機械製作所 トヨタ自動車 日本新聞インキ
- 日本ABC協会 日本A T & T
- 博報堂 JR 東日本 三井物産
- 三菱商事 三菱電機 メリルリンチ
- 日本証券（会員名簿順）

2002年（第30回）予想アンケート結果（2002年1月16日実施 応募総数501）

質問	正解	正解率(%)
① 12月31日現在、わが国の首相はだれか	小泉純一郎	94.4
② 年内にわが国で解散・総選挙が	ない	71.5
③ 12月31日現在、わが国の外相は田中真紀子氏で	ない	69.1
④ 日経平均株価が終値で1万5000円を回復することが * 5月23日の1万1979円が最高値	ない	77.8
⑤ 総務省が年内に発表する完全失業率が7%を超えることが * 10月の5.5%が最高	ない	58.1
⑥ 米国がイラクを軍事攻撃することが	ない	71.3
⑦ 12月の韓国大統領選挙で野党の候補が当選	しない	30.5
⑧ クロウン人間誕生のニュース発表が * 12月27日、スイスに拠点を置く新興宗教団体が発表。信憑性に疑いはあるが「ニュース発表」はあったと判定	ある	11.0
⑨ 日本人が3年連続でノーベル賞を受賞	する	25.0
⑩ 日韓共催のサッカーW杯で、日本チームは決勝トーナメントに出る	出る	46.7

## 書いた話 書かなかった話

## ベトナム戦争――

## あの頃、戦場はすぐそこにあった

細野 徳治

場はインドシナ全域に拡大した。私は戦局分析記事で「ベトナム戦争はゲリラ戦から南北ベトナム軍が戦車を繰り出してわたり合う本格戦争へと移行した」と書いた。

ベトナム戦争取材の中でもこのラオス進攻作戦はとくに思い出深い。ベトナム戦争ほど報道の自由が確保された戦争は他にないとい

くられるが、ここではまず「書かなかった話」ではなく「書けなかつた話」を書く。

## 米軍の報道管制をめぐる攻防

この作戦で、米軍は異例の厳しい報道管制を敷いた。その目的は「作戦に参加する米兵の生命を危険に陥れないため」だった。作戦

が始まった一月三十日から米援助軍司令部で海兵隊大佐によるブリーフィングが行われた。報道しな

いばかりでなく、情報として本社に伝えることもしない誓約をして出席を許された。

作戦の進捗状況が連日、事細かに説明された。ブリーフィングの内容が正しければ、ラオス領内への進攻はまだ始まっていないはずだった。ところがその矢先に、ラオス南部に南ベトナム政府軍部隊が降下したという独自取材に基づいた記事が共同通信が配信した。進攻開始と判断したわが毎日新聞は一面トップで扱った。

当時はサイゴン支局と東京本社を結ぶテレックスはなく、いつつながるかかわからない無線電話しか双方向の直接連絡手段はなかった。本社デスクは共同電を未確認のまま使わざるを得なかつたのだ。

この共同電がきっかけとなって報道協定が破られた。ライバル社の時事通信特派員が、本社からの突き上げに切羽詰まってブリーフィングの内容を明かしてしまったのだ。

その日、UPI通信支局を訪れ

夕闇が迫る国道をフルスピードで疾走していたワゴン車が突然とまった。検問だ。若いカンボジア兵士が自動小銃を窓からこじ入れて銃口を車内の私たちに向けた。一九七〇年五月、米・南ベトナム政府軍によるカンボジア進攻作戦を取材したときのことだ。

南ベトナムに特派されたばかりだった私は、米ABCテレビがチャーターした車に便乗し、国境を越えて国道一号線を西進した。数日前、フジテレビの高木祐二朗特派員ら外国報道陣四人が相次いで行方不明になった地域にさしかかると、ドン・ペーカー特派員自ら

が自動小銃を構え、ベトナム人の助手がピストルを握りしめた。車内の緊張は頂点に達していた。

そこに兵士たちが降ってわいたのだった。私たちは彼らの制止を振り切ってそのままメコン河畔の町ネアクルンまで突っ走り、南ベトナム海兵隊の前線基地にたどりついた。その夜は、海兵隊が占領していた病院で明かした。

思い返すとかなり無謀な戦場初取材だった。自動小銃をまのあたりにつきつけられた不気味さを忘れることができない。

翌七一年二月、米・南ベトナム政府軍はラオスに進攻する。戦

ると、そのことが話題になった。居合わせた米国人記者たちは、なぜかうれしそうだった。時事通信のフライングによって、報道協定が効力を失い早晩解禁される見通しが開かれたからだ。そして六日間続いた報道管制は二月四日に解かれた。実際にラオス進攻が始まったのは、さらに四日後だった。進攻後の戦況は、毎日午後四時から行われていた定例ブリーフィングに発表の場が移された。作戦が長期化するにつれてニュース性のある材料が乏しくなり、発表を聞く報道陣の間では次第に緊張感が失われていった。いつ作戦が終了するかに焦点が絞られた。

報告を聞いた真貝義五郎支局長は「そういうえば旧日本軍も『転進』という言葉を使っていたな」という私の見方に賛同してくれた。南ベトナム政府軍筋からも撤退の裏づけがとれたので真貝支局長が原稿をまとめ上げた。毎日新聞は休刊日明けの三月二十二日付夕刊一面トップで「ラオス作戦、事実上終わる」と報じた。作戦は二日後の二十四日に終了したのだった。

#### インドシナに散った仲間たち

ラオスの戦場でも報道陣に犠牲者が出た。そのひとりフリーランスのカメラマンだった嶋元啓三郎氏の人懐こい笑顔がまだ目に浮かぶ。

ラオスに向かう前日、支局に遊びに来た彼は「ラオスの戦場取材は俺たちプロに任せろ。絶対に行くなよ」とくどいほど念押しして帰った。数日後、AP通信のカメラマンらと同乗していたヘリコプターがラオス南部で対空砲火によ

って撃墜されたのだった。

その死を誰よりも悼んだのは師匠の岡村昭彦氏だ。南ベトナム政府のブラックリストに載せられていて入国を許されないと思われていた岡村氏だったが、ひょっこり支局に現れて私を驚かせたばかりか、ラオスに潜入し生々しい戦場写真を撮影して無事帰還した。

「嶋元はなぜAPと同じヘリに乗ったのか」。よりによって世界中のメディアに配信されるAPのカメラマンと同行するなんて。岡村氏は「そのことが悔やまれる」と声を落とした。独自取材を貫き通した岡村氏ならではの強固なフリーランス魂に心を打たれた。

思えば私がベトナム戦争を現地取材した一九七〇年から七三年までの期間は、報道関係者に最も多くの犠牲者が出た。サイゴンの闇市でヘルメット、野戦服、軍靴など戦場取材装備一式を揃えてくれた沢田教一カメラマンをはじめ多くの仲間たちがインドシナの戦場で不帰の人となった。

#### 近來の戦争取材は……

ベトナム戦争以後、湾岸戦争、アフガン戦争に至るまで戦争の様相は激変し、取材する側の対応も大きく変わった。外信部長時代に起きた湾岸戦争の際には、イラクによる化学兵器攻撃に備え防毒マスクを調達して特派員に持たせたことを思い出す。そしていま米国によるイラク攻撃に備えて、取材する側はさらに厳しい対応策を迫られている。もはや戦場に近づくことすら難しくなってきた。ベトナム戦争取材から三十年。隔世の感を否めない。



はその・とくじ会員 一九四一年生まれ  
 六四年毎日新聞入社 サイゴン ニュー  
 ヨーク各特派員 外信部長 編集局次長  
 論説副委員長 九六年退社後 フォーリ  
 ン・プレスセンター専務理事 現在 同  
 顧問 拓殖大学客員教授 日本女子大学  
 非常勤講師

### 書いた話 書かなかった話

## ● テレビとイラク攻撃

ワーキング  
プレス防毒マスク、化学服の  
装着訓練が前提▼長谷川 澄男  
(フジテレビ外信部長)

「わあ、戦争だぞ、これは」

外信部の外電チェッカーが速報チャイムを鳴らしながら伝えるイラク軍によるクウェート侵攻の電文を見て、当時の編集長が叫んだのは昼のニュースの終わりの直後。それから報道局が蜂の巣をつついた騒ぎとなった。九〇年八月二日であった。

翌日小生はカイロに向かった。アンマンにかなり長期間待機した後、日本のテレビ局としては最初にイラクのビザが発給された。バグダッド入りする前夜、中華料理店で東京とパリ支局からの総勢七人で壮行会を開き、その席で「これから我々はイラク入りをする。何が起きても後悔しないよう、これまでの人生経験をかけてベストを尽くそう」と、意識の高揚を抑え切れずゲキ

を飛ばしたことを記憶している。

翌日空路バグダッド入りした。空港から市内に向かう途中、傷病兵らしき集団を乗せたバスとすれ違ったが、市内に入ってみればそこには拍子抜けするほどの日常があった。屋台ではものが豊富に売られ、夜遅く最初の取材を終えた私たちは近くの食堂に駆け込んで、コーラとケバブを注文、口の卑しい私にはそのケバブが実にうまかったという記憶が残っている。

その時バグダッドには十日ほどいたが、戦争は起こらず、米軍を中心とした多国籍軍がイラク攻撃を開始したのは半年後の九一年一月であった。

あれから十余年、皮肉にもたまたまつぶされるはずだったフサイン大統領は生き残り、もう一方の主役は父親から息子へ移った。あの時どうしてフサイン体制を消滅させなかったのか、それもあって父親のブッシュ大

統領はwimp―弱虫と攻撃され、再選を果たせなかった。このことは父親の後を歩むブッシュジュニアにとって大きな教訓になったに違いない。

さて、事態は再び十余年前と同じ対決状況になりつつある。その中で我々の取材態勢は当時とどう変化したのか。ここではフジテレビに限らずテレビ各社共通の当時との二つの大きな違いを指摘しておきたい。

一つは現地からの伝送方法である。この十余年の間に通信技術の発達、普及で各社が自前の伝送装置―フライアウェーと呼んでいる―を比較的気軽に持ち出すようになり、

今回は少ない社で一カ所、多い社では二カ所にこれを持ち込み、二十四時間現地からの中継可能な態勢を組む予定である。もちろんこの背景はニュース競争の激化だ。ライバル社が現地からほとんど生中継をしているのにこちらは何もできない、という事態(まさに悪夢)を避けたいからということにはかならない。従って現地の取材班の規模はどの社も大きく膨らむ結果になる。

もう一つは安全対策である。前回とは違い今回はイラク側が抗戦の際にBC生物化学兵器を使用する可能

性が指摘されている。そのためフジテレビでは今回現地周辺で取材する記者、カメラマンは社員、外部スタッフを問わず、防毒マスク、化学服の装着訓練を受けさせることにし、これを経験して持参しないものはその危険性がある地域には送らないという方針でいる。各社も同じような方針と聞いている。同業他社はライバルであることはもちろんであるが、この安全という点については運命共同体的な面も強く、そのために現地や東京で情報交換を緊密に行う必要があると感じている。

要するに今回は基本的には何をどう取材し、どう伝えるのか、といった点を基本にある意味で、プリミティブな態勢で臨めたものが、今回は装備の問題、安全の問題を前回よりはるかに大きなウエートで考慮せざるを得ない状況にあることになる。取材以前のところで多大な労力が必要となっているわけだ。

報道、特にテレビ報道では今後取材で担いでいく荷物が重くなる一方なのだろうか。

はせがわ・すみお 一九七一年NHK入局  
ワシントン・バンコク特派員を経て 九〇年フジテレビへ  
ソウル特派員を経て 九九年から現職

# 志木発

埼玉

## 自治体改革

### 徹底した情報公開を原動力に

▼築井 有

(埼玉新聞地域報道部)

中学校に大学のような「学部制」を導入？ 今年初め、多くの新聞に見出しが踊った、新たな教育改革構想だ。

？が付くのは、教育関係者ならだれもが考える、子どもの発達段階に応じた学習プログラムになっているかという視点が、報道から抜け落ちていたため。初めは聞いても、どうも判然としない。

当然のごとく「小学六年生で、自分の適性が分かるとは思えない」「義務教育、公教育の理念に反する」と、批判の声も飛び出した。

何が誤解かという「学部制」とは実は名前だけ。通学区の自由化を行う際に、どの学校がどう違うのか、あらかじめ分かるように「色付け」されるだけだ。「理系」「文系」といつても、極端な違いはなく、変わるの是一年生で週一、二時間、三年生でも最大五、六時間。学年ごとに「転校」も認められ、学びたいことが変われば、比較的自由に学校まで選び直せるといって「学部」と呼ぶか、呼ばないかの問題だ。

三年間で学ぶ総時間数はそのままに、カリキュラムを流動化する構造改革特区（提案中）に認められれば、三年間分の数学を二年生までに終え、三年生では発展的に学ぶことも、計算上は実現できる。こうなれば「限定的な飛び級」とも言える制度になるのだが。

本年中にも、子どもたちの意向調査が行われ、結果によっては「普通科」のような中間的な「学部」も必要とみられている。

志木市は二十五人程度学級、ホームスタディー、公共事業の市民選択権保有条例と、次々に新施策を打ち出し、実施に移してきた。穂坂邦夫市長は「徹底した情報公開が原動力」と説明する。

まだ構想だから、中身が固まってから報道しようと待っていると、報道した時には市民は皆知っているという事態になりかねない。実際に新たな構想や計画案は報道発表後も、市民や識者の意見を入れ修正される。広く意見を集めた上で決めるから、情報提供はより目立つ方が良い。目立つこと自体に意味がある、とも言える。

「重要なことが決まるから、意見を寄せてください」というのが、この時点での報道の立場。だから、決定前のいずれかの段階で情報を提供すること、考える材料の不足を補うことが目的となる。

正規職員数を半減させ、代わりに市民の行政パートナーが実務を担う地方自立計画も同じ。報道の見出し

になった「職員数の半減」は、最大の目的ではない。本当の目的は、市民との協働による自治体づくりのため、より多くの市民が行政に直接かわれるようにすること、財政的な自立。だから組織構成上の無理が生じると指摘されると、正規職員採用の凍結は一部の例外を否定するものではないと、こだわりなく変更される。

多くの事業で、地域ごとの説明会やアンケート調査、多方面からの意見収集も行われる。「本気でやれば、ここまでできる」。こんな声も聞かれるほどだ。記者の立場から言えば、それだけ油断ならない、ということらしい。

(ちくい・ゆう)

「重要ながんが決定するから、意見を寄せてください」というのが、この時点での報道の立場。だから、決定前のいずれかの段階で情報を提供すること、考える材料の不足を補うことが目的となる。

正規職員数を半減させ、代わりに市民の行政パートナーが実務を担う地方自立計画も同じ。報道の見出し

#### 志木市メモ

人口 66,711人  
世帯 26,717世帯  
面積 9.06平方キロ

武蔵野の台地と低地が占める地形で、市の中央部を新河岸川、柳瀬川が流れる。江戸時代に入り、江戸と川越を結ぶ舟運の河岸場や、街道の宿場として栄えた。首都近郊25キロメートル圏内。1965年以降、住宅都市として人口が伸びたが、近頃は安定している。花卉が旗のようになっている「ハタザクラ」、昔語りの「いろはカッパ」などが、施策の名に冠されている。東武東上線の駅は「柳瀬川駅」。「志木駅」は市境で、新座市内にある。

◇個人D会員

# プロフィール



写真 = 民放解説研究会提供

## ●クラブでの呉越同舟●

「党首討論第一ラウンド」が行われた当夜（1・23）、クラブの宴会場で開かれた民放解説研究会の新年パーティーに小泉首相、菅代表が出席。「今日は緊張感あふれてよかったねえ」と語り合っていたとか。お二人のほか塩川財務相、谷垣産業再生担当相など政界から二十人近くが駆けつけた。クラブの会議室などで勉強会を行っているこの研究会は在京、地方局から約百人が参加している。とりわけ、今年の新年会は盛会だった。

## ■会議報告■

### 第147回施設運営委員会

（1・9 小会議室）

昨年十一月、十二月のアラスカ売り上げと貸室利用状況を事務局が報告した。

出席 田村委員長、広上、田村、榊原、中原の各委員。

### 第238回会報委員会

（1・15 ゴールドルーム）

二月号の編集方針を協議した。

出席 住田委員長、小川、中山、平野の各委員。

## △法人会員代表変更▽

共同通信社

（新）山内 豊彦 社長・編集主幹

（旧）齋田 一路

テレビ熊本

（新）吉岡 精一 東京支社長

（旧）加藤 友信

大分放送

（新）三重野敏彦 東京支社長

（旧）菊池 征雄

## 第305回会員資格委員会

（1・21 ゴールドルーム）

二月一日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

出席 門田委員長、瀬戸、桃井、塚越、岡元、深澤、上藤の各委員。

## 第317回企画委員会

（1・22 宴会場）

今後のゲスト選考について検討したほか、五月の通常総会の記念講演の講師候補について協議した。

出席 君和田委員長、小池、矢島、宮田、菅沼、春名、金重、コリス、鳥居、迫田、羽生、和田、村澤、川内、中村、ワーグナーの各委員。

## 第373回理事会（書面）

第61回総会（予算）を三月二十四日に開催することを決めた。

# 写真部

写真 万代 幸一

(一九八四年共同通信入社 大阪支社  
成田支局などを経て 現在本社写真部)



横綱引退の記者会見 (1・20 両国国技館)

## 戦い終わって…

力士の現役生命は短い。「平成の大横綱」といわれた貴乃花。横綱昇進伝達の使者への口上で発した「不惜生命を貫く」という言葉は希代の勝負師としての神髄を表した。だが、けがという難敵にはついに勝てなかった。

振り返ってみると、戦前、戦中の男の子は体育の授業で、あるいは放課後に、まわしを締めて級友相手にわんぱく相撲を取ったものである。学校にはたいてい土俵があった。柔剣道と並ぶ伝統的な国技だったからだ。大相撲が唯一、国技のプロ集団であることは今も昔も変わらない。

その大相撲が外国籍の力士の出現という国際化の波に洗われて久しい。今、外国人入門に規制があるとはいえ、角界には力士六百八十九人中十一カ国五十一人の外国人力士がいるという。とりわけモンゴル勢の活躍は目覚ましい。そうした中で貴乃花の引退と朝青龍の優勝、横綱昇進。当分の日本人力士の土俵入りを見ることはなさそうだ。国際色豊かになったと喜んでばかりはおられない。今の日本にはこうした国際化の進んだ状況を、憂うとか悔しがるかつての排外的なナショナリズムよりも、むしろ甘受する空気が強いようだ。これをしも、幸いと言うべきであろうか。

(中澤 孝之)

昼食会の申し込みは前日午後二時までに

今月も二十四日に山口日商会頭の昼食会が予定されていますが、昼食会の場合、食事の発注や会場の準備の都合で、出席の申し込みは前日の午後二時を締め切りとさせていただきます。ところが最近、当日になってのお申し込みが多く困っています。当日、一時間前までのキャンセルができませんので、締め切りまでにお申し込みいただくようご協力願います。キャンセル分は当日希望の方にまわすようにしています。

なお、無断で欠席された方には、昼食代をご負担いただくことになっていきますので、ご了解ください。

歓迎会プラン 期間は七月三十一日まで

春、夏の異動の季節にあわせた宴会プランを二種類始めました。社内の歓迎会だけでなく、プライベートな集まりにもご利用ください。

①個室での着席・立食

お一人三千八百円で十二種類の洋食メニューのほか、寿司、なめこおろしそばが召しあがれます。ドリンク代、部屋代、税は別ですが、お酒の持ち込みは無料です。お好みのワインや冷酒の持ち込みで、十人で小

宴会  
スペシャル

会員の著書 (ご寄贈いただきました)

『新ロシア外交』(イーゴリ・イワノフ著)

(三元社 二、五〇〇円) 鈴木 康雄会員

『自治体の地域政策』

(同友館 二、八〇〇円) 井上 繁会員

『平成の妖怪 大勲位・中曾根康弘』

(健友館 一、八〇〇円) 本澤 二郎会員

招待券

朝日新聞社から「中原淳一展」「英 国ドールハウス展」、読売新聞社から「メトロポリタン美術館展」「ドイツ表現主義の芸術展」「エカテリーナII世のセーブル磁器展」、日本経済新聞社から「ヴェルサイユ展」、大丸ミュージアムから「小磯良平回顧展」の招待券をご寄贈いただきました。お礼申しあげます。

会議室を利用した場合、ひとり五千円ほどです。十人前後からお受けします。予約は三五〇三一 二七二四へ。

②10階洋食レストランでの着席

より少人数で日比谷の夜景とピアノの演奏をたのしみながらという方におすすしめします。お一人五千五百円(税別)で飲み放題です。洋食メニューが中心ですが、リプロースの和風仕立てソテー、特製シウマイなどもご賞味いただけます。利用は二時間までで、四人から最大二十人までお受けします。予約は三五〇三一 二七六六へ。

クラブの電話

(ダイヤルイン)

- ・和食レストラン(9階) 3503-2723
- ・洋食レストラン(10階) 3503-2766
- ・貸室予約 3503-2724
- ・受付、宴会打ち合わせ 3503-2721
- ・クラブ行事への申し込み 3503-2722
- ・会員事務 3503-2725
- ・経理 3503-2728

「マイBook マイPR」は7ページに掲載しました。

訃報

以下の会員の方々が死去されました。ご冥福をお祈りいたします。▼久保田晃会員(日経OB、75歳、11月14日)▼岡本正巳会員(NHKOB、85歳、12月25日)▼今井啓一会員(日経OB、67歳、同28日)▼小山武夫会員(中日新聞相談役、93歳、1月1日)▼林昇会員(千葉日報取締役編集局長、67歳、同28日)

会員現況 法人会員 一四九社 基本会員 八二一人 個人会員 一、七四二人 法人・個人賛助会員 七八社 二〇八人 特別賛助会員 六四人 名誉・功勞会員 一二人 計 二二七社 二、八四七人

会報委員会

- 委員長 住田良能
- 委員 小川津根子 尾崎美千生 中山司朗
- 平野恭子 堀内敏宏 元田 成
- 連絡 長谷川和子 本庄五月
- (電話) 〇三三三五〇三二七五二
- (FAX) 〇三三三五〇三二七二二